

2024年7月の沖縄地方の平均気温は過去最高を記録 ～沖縄周辺海域の海面水温も～

沖縄地方の地域平均気温平年差は+1.2℃となり、7月として1946年以降で最も高くなりました。また、沖縄周辺海域の海面水温も、速報値で7月として解析値のある1982年以降最も高くなりました。

7月の沖縄地方の地域平均気温平年差（※1）は+1.2℃で、7月としては統計を開始した1946年以降で最も高く、2016年の+0.8℃を大きく超える記録更新となりました。地域平均気温の月の記録更新は、今年は4月に続き2回目です。沖縄県内の25観測地点（アメダス等）でも、22地点で月平均気温の記録を更新しました（別紙の1、2）。

日々の気温でも、7月はとても暑かったことが分かります。那覇では、19日に歴代最高の36.0℃を観測し、月間の猛暑日日数は8日となり、沖縄県内で最も多い記録（歴代1位タイ）となりました。石垣島では、18日と19日に日最低気温が、それぞれ30.4℃（歴代1位）、30.3度（歴代2位）と連日30℃を超え、とても暑い夜が続きました。そして、沖縄県内で熱中症警戒アラートが発表された日（※2）は、24日に及びました（去年は21日）。

7月の地域平均気温平年差の高い方からの順位

順位	年	地域平均平年差（℃）
1	2024	+1.2
2	2016	+0.8
3	2022, 2007, 2003	+0.7

平年値期間は1991～2020年。統計開始は1946年。

沖縄周辺海域の海面水温は、東シナ海南部で29.8℃、沖縄の東で30.6℃、沖縄の南で30.8℃（いずれも速報値）となり、解析値のある1982年以降、7月としては最も高くなりました（別紙の3）。

この記録的な高温の主な要因は、暖かい太平洋高気圧が強かったことにより、沖縄地方と周辺海域で晴れた日が続き日射によって昇温したことです。また、中旬までは台風がなく風の弱い日が続いたためにかき混ぜ等による水温低下の効果が弱かったことも影響した可能性があります（別紙の4）。また、高温の背景には、地球温暖化等の影響も考えられます。

※1 沖縄地方における地域平均平年差とは、平年値（1991～2020年の平均）と比べて、どのくらい高い（低い）のかを、地域全体でみるものです。那覇、名護、久米島、宮古島、石垣島、西表島及び与那国島における気象要素を7地点平均することにより算出しています。

※2 熱中症警戒アラートの発表された日数は、環境省熱中症予防情報サイトから独自に集計しました。

問合せ先：沖縄気象台 地域防災推進課 担当 若松
電話：098-918-4012

1. 2024年7月 沖縄県内の気象官署及び特別地域気象観測所における平均気温 すべての地点で統計開始以降最も高くなりました。

観測地点	月平均気温 (°C)	平年値 (°C)	平年差 (°C)	統計開始以来の 高い方からの順位 (10位以内のみ)	7月としての これまでの最高		統計開始 年
					月平均気温 (°C)	年	
那覇※	<u>30.5</u>	29.1	+1.4	1	29.9	2017	1890
名護※	<u>30.1</u>	28.9	+1.2	1	29.6	2017	1967
久米島※	<u>30.6</u>	29.0	+1.6	1	29.9	2022	1958
南大東島	<u>30.1</u>	28.7	+1.4	1	29.7	1991	1942
宮古島※	<u>30.0</u>	28.9	+1.1	1	29.8	2022	1938
石垣島※	<u>30.7</u>	29.6	+1.1	1	30.7	1956	1897
西表島※	<u>30.0</u>	28.9	+1.1	1	29.7	2016	1954
与那国島※	<u>30.1</u>	28.9	+1.2	1	30.1	2020	1957

・赤字及び下線は7月の極値更新を表します。
・※印は沖縄地方における地域平均に用いている7地点を示します。

・値は速報値であるため修正されることがあります。
・)の付いた値は準正常値です。
・平年値期間は1991～2020年です。

2. アメダス地点の2024年7月の平均気温

伊是名、奥、北原、宮城島、渡嘉敷、安次嶺、糸数、北大東、旧東、下地島、鏡原、仲筋、伊原間、盛山で統計開始以降最も高くなりました。

地点名	月平均 気温 (°C)	平年値 (°C)	平年差 (°C)	統計開 始年
伊是名	<u>29.9</u>	28.6	+1.3	1977
奥	<u>28.0</u>	26.9	+1.1	1977
北原	<u>30.7</u>	29.2	+1.5	2003
宮城島	<u>29.3</u>	28.3	+1.0	2008
渡嘉敷	<u>28.1</u>	26.9	+1.2	1977
安次嶺	<u>30.5</u>	29.3	+1.2	2003
糸数	<u>28.4</u>	27.2	+1.2	1977

北大東	<u>30.6</u>	29.1	+1.5	2003
旧東	<u>30.0</u>	28.8	+1.2	2003
下地島	<u>30.2</u>	29.1	+1.1	2003
鏡原	<u>29.6</u>	28.7	+0.9	2003
仲筋	<u>30.4</u>	29.5	+0.9	2003
伊原間	<u>30.3</u>	29.0	+1.3	1977
所野	30.2	29.2	+1.0	2003
盛山	<u>30.1</u>	29.1	+1.0	2013
大原	30.1	29.0	+1.1	1978
波照間	30.3	29.1	+1.2	1979

・赤字及び下線は7月の極値更新を表します。
・平年値がある地点のみ掲載しています。

・値は速報値であるため修正されることがあります。
・平年値期間は1991～2020年です。

3. 沖縄周辺海域で7月の月平均海面水温が高かった年（上位順）

東シナ海南部			沖縄の東			沖縄の南		
年	平均海面 水温(°C)	平年差 (°C)	年	平均海面 水温(°C)	平年差 (°C)	年	平均海面 水温(°C)	平年差 (°C)
2024	29.8	+1.3	2024	30.6	+2.1	2024	30.8	+1.4
2016	29.5	+1.0	2001	30.1	+1.6	2020	30.3	+0.9
2001	29.5	+1.0	1991	29.6	+1.1	2017	30.2	+0.8

- ・ 解析値のある1982年以降の順位。2024年の値は速報値であるため修正されることがあります。
- ・ 平年値期間は1991～2020年です。

4. 気温と海面水温が記録的に高くなった要因

暖かい太平洋高気圧が強く（図1）、沖縄地方では、台風第3号が7月20日に発生しましたが、太平洋高気圧に覆われて晴れた日が多かったため、日照時間が長くなり、気温が上昇し、記録的な高温となりました。太平洋高気圧の強まりの要因には、インド洋～インドネシアで積雲対流活動が活発になったことの影響に加えて、7月上旬を中心に亜熱帯ジェット気流が日本付近で北に蛇行したことも影響した可能性が考えられます。

また、沖縄地方周辺の海面水温も高くなりました（図2）。強い日射の影響に加え、中旬までは台風などの影響が少なく風が弱いためにかき混ぜ等による水温低下の効果が弱かったことが、高い海面水温の要因と考えられます。そして、この高い海面水温は、沖縄地方の高温に影響した可能性があります。

気温と海面水温が記録的に高くなった背景には、地球温暖化や春まで続いたとみられるエルニーニョ現象による影響もあります。

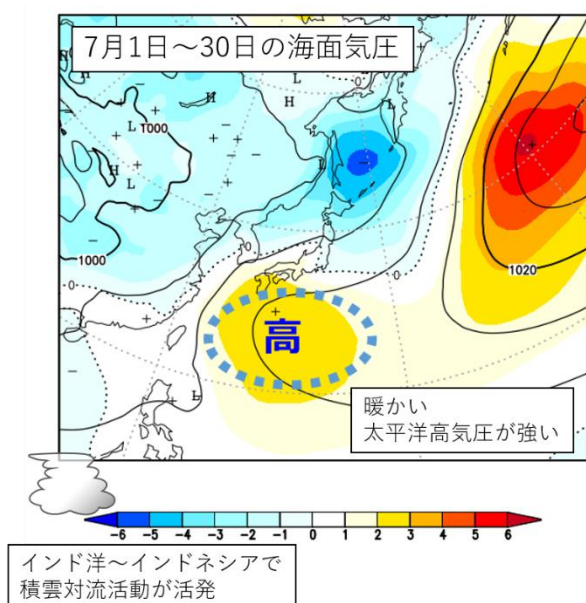


図1 7月1日～30日平均の海面気圧（実線）と平年偏差（陰影）

暖色系は平年より気圧の高い領域。寒色系は平年より気圧の低い領域。

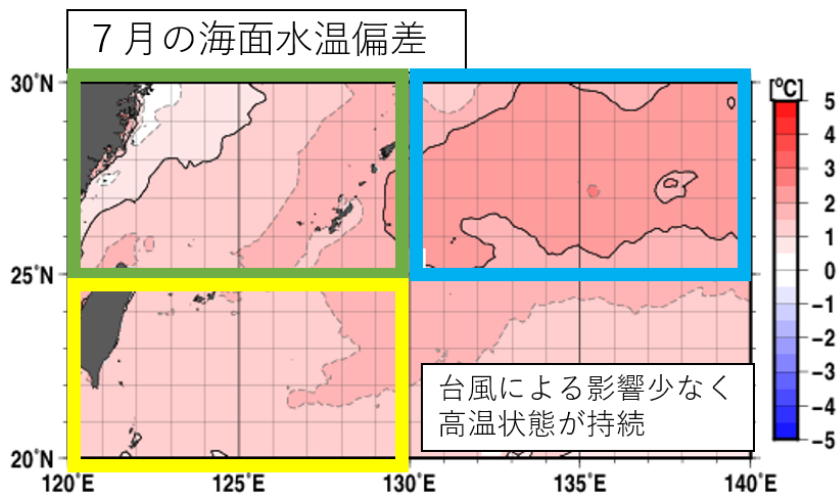


図2 7月の海面水温偏差
暖色系は平年より海面水温の高い領域。寒色系は平年より海面水温の低い領域。図中の緑枠（左上）は「東シナ海南部」、青枠（右上）は「沖縄の東」、黄枠（左下）は「沖縄の南」の海域として海面水温を平均する領域を示す。

月別、旬別の沖縄県の天候についての詳細は、「沖縄地方の天候」や「沖縄県農業気象旬報」をご覧ください。

沖縄地方の天候：<https://www.data.jma.go.jp/okinawa/data/tenko/tenko.html>

沖縄県農業気象旬報：<https://www.data.jma.go.jp/okinawa/data/nougyo/nougyo.html>

今後の見通しの詳細は、「季節予報」や「海洋の健康診断表」をご覧ください。

季節予報：

<https://www.data.jma.go.jp/cpd/longfcst/kaisetsu/?region=011100&term=P1M>

海洋の健康診断表：

<https://www.data.jma.go.jp/kaiyou/data/db/kaikyo/ocean/forecast/month.html>